

## 審査結果の要旨

報告番号	乙 第 2820 号	氏名	古賀 由香利
審査担当者	主査	田中啓之	(印)
	副主査	福井義弘	(印)
	副主査	山下典雄	(印)
主論文題目 : Prognostic factors associated with mortality in patients undergoing emergency surgery for abdominal aortic aneurysms (腹部大動脈瘤に対する緊急手術症例の死亡率に關与する予後規定因子)			

### 審査結果の要旨 (意見)

腹部大動脈瘤(切迫)破裂に対する緊急手術においては、その術前状態が不良な症例が多く、その術後早期成績は極めて不良である。

本研究では、腹部大動脈瘤に対し緊急手術を施行した46例の症例について、術後生存症例群、死亡症例群の二群に分け、術後の予後規定因子について詳細な統計学的検討を行い、術前ショック、大量の出血とそれに伴う多量の輸血および貧血などが予後規定因子であることを明らかにした。

本論文で得られた知見は、今後の腹部大動脈手術に対する緊急手術の成績の改善、手術適応の判定について、非常に価値の高い内容を含んでおり、学位論文としてふさわしいものであると判定した。

### 論文要旨

腹部大動脈瘤 (abdominal aortic aneurysms: AAAs) の緊急手術における死亡率と予後規定因子について後方視的に検討した。【方法】2005年1月から2010年6月までに、久留米大病院で AAAs に対する緊急手術を受けた患者42人を対象とし、以下の項目について生存群と死亡群とで比較した:年齢、性別、術前のヘモグロビン (Hb) 値、ヘマトクリット (Ht) 値、血小板 (Plts) 数、塩基過剰 (BE)、血清グルコースと乳酸値、術前ショック (収縮期血圧 < 80 mmHg) の有無、輸血の有無、AAA が破裂か切迫破裂か、病院到着あるいは手術室搬入から大動脈遮断までの時間、術中の出血量と輸血量、輸液量、尿量。【結果】術後30日以内に9人が死亡した (死亡率: 21.4%)。死亡群では、術前にショックを呈し ( $P=0.0004$ )、年齢が高く ( $P=0.0052$ )、術前 Hb/Ht 値 ( $P<0.0001$ )、Plts 数 ( $P=0.0003$ )、BE ( $P<0.0001$ ) が低く、乳酸値が上昇し ( $P=0.0048$ )、病院到着 ( $P=0.0459$ ) あるいは手術室搬入 ( $P=0.0288$ ) から大動脈遮断までの時間は短く、術中出血量 ( $P=0.0038$ ) と輸血量 ( $P=0.0083$ ) が多く、尿量は少なかった ( $P=0.0004$ )。【結語】AAAs 緊急手術では、年齢、術前ショック、大量の出血とそれに伴う多量の輸血および貧血などが予後規定因子である。血行動態悪化前に、大量出血による術前ショックと貧血を是正することが重要である。